

日本版中国研究者調査 2025

—概要と予備的考察—

伊藤亜聖・林載桓・于海春・御器谷裕樹

日本に拠点を置く中国研究者がどのような諸困難に直面してきたのかを明らかにするため、我々はアンケート調査「日本における中国研究者の経験調査(2025年)」を2025年3月に実施した。その結果、次のことが明らかになった。11.3%の回答者が中国当局から研究が政治的に敏感であると直接的に指摘された経験があると回答した。27.1%の回答者は、特定資料が利用できないことや現地知人が当局から接触される等を含む何らかの研究上の諸困難に直面した経験があった。研究発表の面では、21.8%の回答者が中国での研究発表や成果の刊行の際に、中国側の検閲や事前承認が必要とされた等の経験を有していた。また昨今の拘束等の事件が研究テーマの選定に影響を与えていると考えている回答者が32.0%いた。そして43.2%の研究指導者がテーマのセンシティブさを考慮に入れて大学院生への指導を行ったことがあると回答した。こうした経験比率は学術分野により大きな差異があった。本調査は日本に拠点を置く中国研究者が直面してきた諸困難の一端を示すものである。